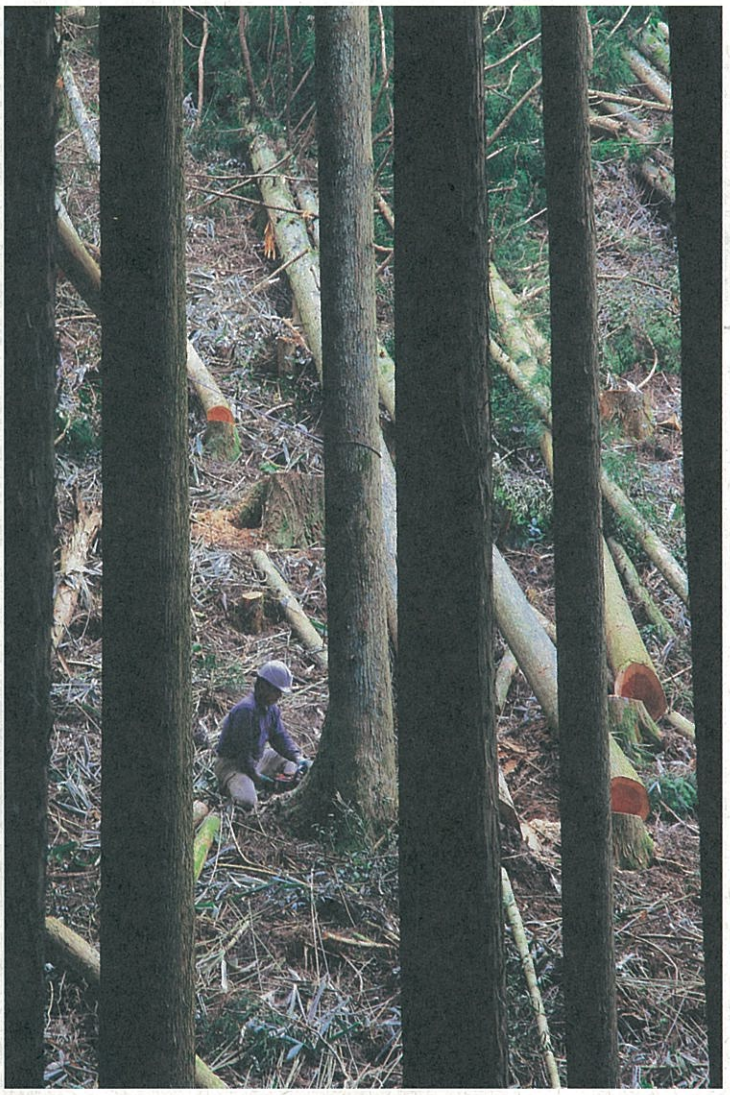
社団法人 静岡県山林協会

森と人

2010年
333
11月15日

“創知協働の森づくり”と“循環利用の森づくり”を進めよう!

平成22年度
しずおか森林写真コンクール
「最優秀賞」作品



© 静岡県

■表紙写真　題名:男のしごと　撮影場所:静岡市葵区梅ヶ島　撮影者:舘林　秀夫 氏(静岡市)

INDEX

本誌はホームページでも掲載しております。是非ご覧下さい。URL：http://www.moritohito.jp

2 首長は語る(No.23)
人と人との繋がり、思いやりのまちづくり

3 支部だより①
「“ふるさと”と言いたくなる夕陽のまち」を目指して

4 支部だより②
180人！施業集約化OJT研修

5 県庁だより①
森林・林業再生プランと今後の取組の方向

6 県庁だより②
小山町における台風9号災害について

7 森林・林業研究センターだより(No.70)
プロジェクト研究の成果と普及

8 本部情報
より高度な能力の開発に向けて

8 事務局だより

別冊折込
平成22年度しずおか森林写真コンクール入賞作品

首長は語る No.23

人と人との繋がり、思いやりのまちづくり

裾野市長　大橋　俊二

人の優しさが、市長、一番の幸福

「裾野」自体の名前があまり知られていないので、私は「富士山の裾野にある裾野市の市長です」と言っておりますが、当市は東に箱根山、西に愛鷹山、眼下に駿河湾と、風光明媚なまちです。市内には黄瀬川、泉川、小柄沢が流れており、自然にいつも触れ合うことが出来る環境だからでしょうか、思いやりがあり優しい人が多く、それが、市長として一番幸福です。

例えば、須山地区は、爺ちゃん、お婆ちゃんと一緒の世帯が多いせいか、礼儀正しく優しい気持ちの人が多いです。富士山噴火の訓練では、1,200戸数で1,000人を超える人が集まるなど、人と人との繋がりがしっかりしています。

また、我々の先祖のことになりますが、340年前に完成したあの「深良用水」は、深良村の名主であった大庭源之丞が、干ばつの苦しみから農民を助けようと完成させたものであります。この様に、これからの社会の発展は、人々の信頼関係がしっかりしたコミュニティーを基本にして、「人を思いやる」人が如何に大勢出るかということではないかなと思います。

▲深良側穴口

健康文化都市を目指して

私は、市長になってから、『赤ちゃんからお年寄りまで、健康で安全で安心して快適に住めるまち、健康文化都市』の構築を掲げております。

東京から100km圏内の利便性から、外需産業、特に自動車産業が多いですが、これからは富士山麓の環境と観光を活かし、健康医療産業を誘致して、メディカルツーリズムの様なものにしたい。暮らし満足度日本一を目指して、将来、医療のまち、健康のまちとして県内でも「医療関係の進んだまち」、「裾野市に住んでいて良かった。これからも住みたい」と思えるまちを創っていきたいと考えております。

知恵を出し合って協力

よく都市間競争と言いますが、本当は、お互いの立場や個性を尊重しながら、広域的な繋がりで助け合ったり、協働し合うことが、今やるべきことだと思います。

政治は生活に密着したものが基本であり、如何にそれを実行するかです。それには健康でなければと「健康づくり」に力を入れて、中学3年までの医療費の無料化や給食費の援助等の政策を中心に行っております。そして、教育は必要ですから、小学校3年まで34人以上のクラスには先生をもう一人付けることにしています。

また、自分が医師という体験から、髄膜炎ワクチン助成を県内で最初に行い、子宮頚がんワクチン助成についても近隣市町で相談し合いながら行っております。この様に、広域的な連携をとりながら協力し合っています。大人が知恵を出し合って協力する姿を見せることで、次の世代もまた育っていきます。

木造の体育館で温もりを

裾野市の森林は、7割が人工林で全国平均を大きく上回り、先人達に感謝しています。私も高校2年生の時に、昭和27年の全国植樹祭でスギを植林しました。市ではこの豊かな資源を守り育てるため、間伐を年200haほど実施しており、間伐材の引き出しについても補助をしています。

また、木の温もり、暖かさを感じてもらうため、市内の3つの小学校で、木造体育館を建設しました。建設の際、本当は地元の木だけで造りたかったのですが、残念ながら必要な量を確保することが難しいため、ほかの地域の木材や外材などを用いています。

そして、現在、森林に親しむことを目的に、ゴルフ場より寄付していただいた山林を利用し、富士山や駿河湾の眺望を楽しめるハイキングコースを計画しています。

▲アリーナ

大事に遺しておきたいものを守る

観光協会と商工会が協力して、観光と自然を活かしたまちづくりということで、富士山周辺ヘルシーパーク、パノラマロード、花いっぱい運動など、地域と一緒になって行っています。

しかし、「観光、観光」と言っても自然を壊されるのは困ります。以前、記者を対象に「愛鷹つつじを見る会」を行った際、報道記事を見て大勢の人が来てくれましたが、木を切るなど荒らされてしまいました。情報の出し方は難しいです。

大事に遺しておきたい環境を守るのも一つの環境です。勿論、森林を減らさないことも一番の大事なテーマです。

支部だより①

「“ふるさと”と言いたくなる夕陽のまち」を目指して

西伊豆町　産業建設課

風光明媚な観光地として名高い西伊豆町では、夕陽の美しい町としての魅力を新たにプラスして町づくりを進めています。町興しの取組を紹介していただきました。

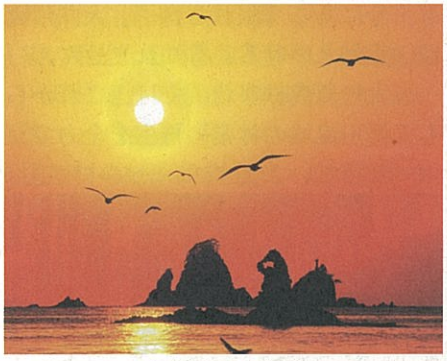
西伊豆町は、伊豆半島の西海岸の中央に位置し、西側は駿河湾に面し、東側は急峻な天城山系が連なる自然に囲まれた美しいまちです。

平成17年４月に、ガラスの原料であるケイ石の産地であった旧賀茂村と、堂ヶ島などの観光地を擁する旧西伊豆町が合併し、新「西伊豆町」としてスタートしました。

全国的にも有名な景勝地である堂ヶ島や黄金崎などと豊富な湯量を誇る温泉を活用した観光産業をはじめ、駿河湾を舞台とした漁業、天城山系の清らかな湧水によるワサビ栽培に代表される農業など、豊かな自然を背景とした生活が営まれています。

夕陽のまちづくり

そんな西伊豆町において、現在町のキャッチフレーズである「“ふるさと”と言いたくなる夕陽のまち」を目指し、夕陽をまちのシンボルとして捉え、新たなまちづくりを進めているところです。



▲大田子の夕陽

町の多くが国立公園・名勝地に指定され、海岸や島々、奇岩を前景に海へ沈む夕陽はとても美しく、平成17年９月、大田子海岸にて「夕陽日本一」を宣言しました。

夕陽のビュースポットは町のいたるところに点在し、100箇所以上の候補地の中から「西伊豆町夕陽33景」を選定し、中でも日本夕陽百選にも選定された大田子海岸からの夕陽は、男島・女島からなる田子島と、地元で「メガネッチョ」と呼ばれる丸い穴のあいた奇岩が描き出すシルエットは息を呑むほどの絶景です。

「夕陽日本一宣言」をしたことにより、住民にとって今までただ漠然と「美しいな」と見ていた夕陽が、自分たちの誇りとなり地元固有の資源として捉えられるようになりました。例えば、真っ赤な果肉が夕陽をイメージさせる「夕陽メロン」の栽培を試み商品化されるなど、夕陽をモチーフにした商品が次々と考案されています。

地元固有の資源の発見

こうした動きは夕陽以外にも波及し、地元を見つめなおし地元固有の資源を多くの方に知ってもらいたいという気運が高まってきています。

当町田子地区に古くから伝わる「塩かつお」です。これはカツオを塩漬けにしたもので、カツオ漁で栄えた漁師町の保存食として伝えられ、地域では航海安全と豊漁豊作、子孫繁栄を祈願しワラでお飾りを付けてお正月に「正月魚（しょうがつよ）」と呼びお供えしているものです。

この味を広めようと「しおかつおうどん」や「しおかつおお茶漬け」など様々な食べ方が研究され、地元飲食店で食べられます。

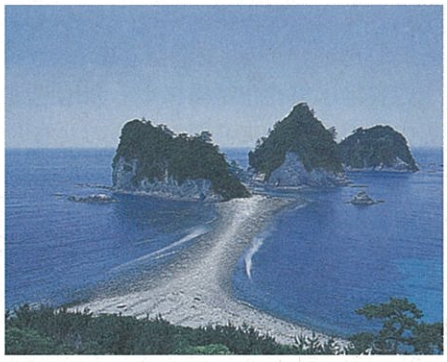
▲しおかつお

他にも、宇久須地区がガラスの主原料である珪石の日本一の産出地であったことから、ガラス作家が町内に移住し、創作活動に励み、一般の方もガラス作品作りを体験することができます。また「黄金崎クリスタルパーク」では世界中のガラス作品を鑑賞することができ、特に地元ブランド「かも風鈴」は、地元ガラス作家が一つ一つ作り上げる世界でただ一つの風鈴であり、夏場には涼しげな風鈴の音色が響き渡ります。

▲かも風鈴

このように西伊豆町は、夕陽はもちろんのこと、黄金崎のプロピライト・瀬浜海岸のトンボロなど町全体がエコミュージアムであり、町内各地で様々なエコを発見することができます。

ぜひ一度西伊豆町にお越しいただき、あなただけのエコポイントを探してみてはいかがでしょうか。



▲瀬浜海岸のトンボロ

支部だより②

180人！施業集約化OJT研修

～いけるかも　大井川流域～

志太榛原農林事務所　森林整備課　班長代理　松村　史基

今年度、農林事務所主催の施業集約化のためのOJT研修が、各地で開催されています。今回は、志太榛原農林事務所から、全６回のOJT研修の概要や森林組合の意気込みについて紹介していただきました。

国からのXmasプレゼント

木材自給率50%の達成を謳った国の森林・林業再生プランが発表されたのは昨年のクリスマス12月25日でしたから、もうあれから１年になろうとしています。「また新政権も派手な花火を揚げたものだな」程度に受け取っていた方も、どうやら国は本気であるらしいことに気づくまでに、それほどの時間はかからなかったはずです。

OJT研修に延べ180人

さっそく志太榛原農林事務所では、この国からのクリスマスプレゼントの包装をほどき、対応の検討に入った訳ですが、その一環として実施したのが６月から８月までの間に開催した、大井川流域の林業の再生、地域の木材の増産のための礎を築くためのＯＪＴ研修でした。

内容は、集約化施業による利用間伐等の推進のために必要な情報の共有とスキルアップを図るためのものを設定しましたが、真の狙いは、この研修を通じたプロジェクトチームづくりにありました。

受講者は、指導的な役割を担う農林事務所と市町の職員のほか、地域の森林経営の担い手となる森林組合の職員としたところ、毎回30人前後の受講者が参加し、受講者総数は延べ180人に達しました。

回	概　　要	受講者数
1	オリエンテーション 基礎学習（情勢）	30
2	先進地調査（天竜地域）	32
3	モデル集約化団地立木調査 作業路線形決定の基本	29
4	林分データ分析 コスト計算	33
5	施業プラン書作成 販売計画	30
6	修了試験（100問） 欧州の林業の現状 全体プランニングの基本	26

森林組合の意気込み

特筆すべきは、毎回多くの職員を受講させてくれた森林組合おおいがわの意気込みでした。

森林組合おおいがわは、平成14年に５組合が合併し誕生した広域森林組合です。名称のとおり大井川流域のほぼ全域をカバーし、個性溢れる有能な職員を抱える一方で、その合併効果が十分に発揮されるに至っておらず、また、森林施業プランナー研修修了者である永嶋幹士さんが学んできたことが組合の事業に生かされきれていないなど、まだまだ「伸びしろ」がある森林組合でした。

そんな森林組合おおいがわが、今回の研修には課長クラスから新規採用職員まで、毎回、15人程度の職員が受講してくれました。

これは、「森林組合の本分」についての理解と地域の森林経営の担い手としての自覚の現れとして捉えられます。一言で言えば「前向き」なのです。

森林組合おおいがわが本来持っている実力どおりの働きができるか否か、これが大井川流域の林業の再生に大きく関わってくることは間違いありません。

受講者の声

●「森林施業プラン書の作成が勉強になりました。集約化施業にかかわらず、需要と供給を一体的に捉えた木材生産のために下流側との連携は不可欠だと感じました。」

●「高性能林業機械に加えて高性能林業人間が必要だと感じました。」

●「私達と組合員（林家）の意識・情報量の差をどのようにして埋めていくかも重要なポイントですね。」

●「よい結果を出すことが集約化施業の展開のカギになりそうです。最初につまづかないように気合を入れていきたいです。」

いけるかも　大井川流域

いずれにしても、森林・林業再生プランに基づく取組は始まったばかりです。「急がば回れ」の諺どおりに、まず体制づくりから入った大井川流域ですが、今回の研修で結成されたチームの経験値がアップしていけば、結果を恒常的に出せるいいチームに成長していきそうな予感がします。それだけの潜在力が森林資源的にも人的資源的にも十分にある「眠れる獅子」大井川流域。意外といけるかも知れません。

志太榛原農林事務所では、これからも大井川流域の林業の再生を全力でサポートしていきます。

県庁だより①

森林・林業再生プランと今後の取組の方向

県交通基盤部　森林計画課

国では森林・林業再生プランを策定し、森林・林業に関する施策・制度・体制の抜本的な見直しを進めています。今回は、国の動向と県の取組方向を紹介していただきました。

森林・林業再生プラン

平成21年12月、農林水産省は、10年後の木材自給率50%以上を目標に掲げ、我が国の森林・林業を再生していく指針となる「森林・林業再生プラン」を策定しました。その後、「森林・林業再生プラン推進本部」の下に置かれた5つの検討委員会において、様々な検討が行われ、平成22年6月の中間報告では、“森林・林業に関する施策、制度、体制について、抜本的見直しを行い、新たな森林・林業政策を構築していくことが必要”とし、改革の主な内容として次のことが示されました。

①全体を通じた見直し

森林計画制度等の見直し

②適切な森林施業実行の仕組みの整備

森林経営計画（仮称）制度の検討とこの作成者に限定した支援措置の検討　等

③広範に低コスト作業システムを確立する条件整備

森林経営計画による施業集約化の推進、簡易で耐久性のある路網の技術指針等の作成　等

④担い手となる林業事業体や人材の育成

森林組合の業務の明確化、フォレスターの育成　等

⑤国産材の効率的な加工・流通体制づくりと木材利用の拡大

森林・林業再生プラン実践事業

森林・林業再生プランの策定を受け、林野庁では全国5地域のモデル地域で先行的な取組を進めていますが、静岡県富士地域がこの一つに選定され、静岡県森林組合連合会が中心となって、長期的な森づくりのあり方の検討や欧州型の先進機械を導入した効率的な生産システムによる実証実験に取り組んでいます。

▲フォレスターを招いた研修会

取組に当り、欧州のフォレスターから、「効率的な木材生産は、いきなり欧州型の大型機械を導入して単純に生産性を向上するものではない。まず、森林の価値を高めるための長期的な森づくりのコンセプトがあり、これに合った作業システムと機械を選択し、恒久的な道を整備、さらに森づくりや作業を行う人づくりを行う。これらをトータルで進めることで問題解決につながる」という提言がありました。

現在、フォレスターの提言やドイツ・オーストリアの現地研修をふまえ、①森林の価値を高める「将来の木施業」、②緩傾斜地での恒久的な基幹道を基盤にしたホイールタイプ機械の導入（林業用トラクタによるウインチ集材）、③急傾斜地における自走式搬器とタワーヤーダによる架線集材などについて、具体的な検討を進めています。

▲林業用トラクタ（ベルナー社 WARIO）

▲自走式搬器（コンラッド社 WOODLINER）

平成23年度林野庁概算要求の内容

森林・林業再生プランをふまえ、平成22年8月末に林野庁は、平成23年度の森林・林業対策予算概算要求の内容を公表しました。主な取組内容は、①森林管理・環境保全直接支払制度（仮称）の創設、②簡易で丈夫な路網整備の推進、③安全・安心の確保に向けた治山対策の重点化、④日本型フォレスター等の人材育成、⑤地域材の利用拡大の推進です。

特に、直接支払制度は従来の施策を抜本的に見直し、意欲と実行力のある者に直接支援するもので、①集約化し計画的な施業を行う者を支援する、②間伐等への支援は搬出間伐への支援に限定する、③補助事業の大幅な簡素化と標準工程を定め単価の透明化が改革の方向として示されたことがポイントです。

静岡県の取組の方向について

現在、県では、**充実した森林資源を活用しながら森林整備を進め、健全な森林の育成を図るため、県産材生産量45万㎥/年を目標に掲げ**、伝統地域の天竜地域、集約化が先行している富士地域、森林の資源量や地形等から将来的に利用間伐が期待できる賀茂、北駿、大井川地域などで、効率的な木材生産システムの構築に取り組んでいますが、今後、さらに国の新たな動きと呼応して、全県的に取組を拡大していきます。

県庁だより②

小山町における台風９号災害について

県交通基盤部　森林保全課　治山班

まだ記憶にも新しい台風９号は、小山町に甚大な被害をもたらしました。被害の状況と災害復旧への取組について紹介していただきました。

はじめに

9月3日に発生した台風9号は、静岡県内に入り熱帯低気圧となったものの、その進路上に位置する小山町へ、大量の雨を降らせ、７～８日のわずか10時間余りの内に総雨量490㎜、最大１時間雨量は120㎜にも達する激しい豪雨となりました。

この雨により、町北部の山地を中心に多くの山崩れや土石流が発生し、下流の河川では濁流が橋や護岸を流失させるなど、交通網も各所で寸断され、柳島地区が一時孤立するなど、各地で甚大な被害を及ぼしました。被災された皆様には、心よりお見舞い申し上げます。

▲各所で頻発した山崩れ（関東森林管理局提供）

今回、これらの被害状況と災害復旧への取組について報告します。

被害の状況

この台風による被害は、小山町内で住宅の全壊6戸、半壊25戸、床上浸水18戸、その他建物の全半壊18件、床上・床下浸水118件にも上りました。林地に関する被害は全体で82箇所、被害額約25億円に及び、その主なものは、「山崩れや土石流等の治山被害」で被害箇所37箇所、18億円弱に及びました。この他「林道の法面崩壊等の林道災害」等がありました。また、農地、わさび田や養殖漁場等も大きな被害を受けました。

▲土石流によって被災した人家

災害の特徴

今回発生した山腹崩壊は、猛烈な雨により、この地域特有のスコリヤ（火山灰軽石）土層が大量に流出し、一気に下流の集落・河川内に流れ込んだものです。スコリヤはその粒径が小さく、比重も軽く、粘着性にも乏しいことから、土壌の雨水浸透能力をはるかに超えた今回の集中豪雨によって、多量の土砂を巻き込みながら土石流となって、山腹斜面を流れ下ってきました。このため、下流の市街地などでは、流下した土石や流木が橋梁や水路等を閉塞し、泥水が道路に流出するなどして被害を拡大させました。

今回の災害では、土石流に混じり多くの流木が流出した箇所もありましたが、治山ダム等の治山施設がこれら土石流の勢いを減じ、流木の流出を抑止し被害を最小限に食い止めました。

もしも、治山施設が無ければ被害は数倍の規模であったものと想像され、治山事業の効果とその必要性を改めて認識しました。

▲流木等を食い止めた治山ダム

またこれほどの土石流被害を被りながら、死者が一人も出なかった事は不幸中の幸いであり、これも被災地住民の方々の適切な避難行動や、それを支えた各地の防災要員の的確な行動があったればこそであり、今回のような自然災害への初期対応はまず、危険性の周知や情報伝達、警戒避難体制等をいかに迅速に行えるかにかかっていると言えます。

復旧への対応

これら災害に対し、小山町を管轄域に持つ東部農林事務所では、発災直後より各被災林地の現場調査に奔走し、その災害実態の把握と復旧対策の作成に努めています。

被害箇所のほとんどは山間奥地にあり、そこへ至る道路は各所で寸断された状態のため、各流域を徒歩にて災害実態調査を行い、次期降雨等による被害の拡大の恐れが強い箇所などを中心に、災害関連緊急治山事業５箇所、林地荒廃防止施設災害復旧事業３箇所の整備準備を進めている所です。

今後、多くの方々のご協力を頂きながら、一日も早い災害復旧に向け作業を進めてまいりたいと考えていますので、皆さまのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

森林・林業研究センターだより No.70

プロジェクト研究の成果と普及

木材林産科　袴田　哲司

プロジェクト研究「広葉樹の遺伝子解析と増殖技術の開発」が終了しました。豊かな森林づくりにつながる主要な成果を紹介していただきました。

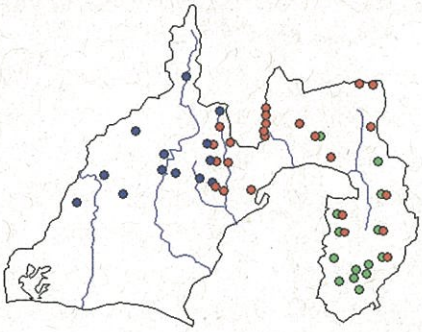
研究の背景と目的

静岡県では、荒廃または管理の行き届いていない森林を、針・広混交林や多様な広葉樹林へ誘導することを重要な施策の一つとしています。しかし、環境が異なる遠方由来の苗木を本県に植えた場合、地域の環境に適さず生育不良を起こすことや、長い時間をかけて培われてきた森林の遺伝的な組成が乱されるなどの問題が危惧されます。また、安定的に種苗を確保することが困難であったり、系統の不明瞭な種苗が流通したり、苗木の不良や植栽技術の不備によって活着率が低下することも心配されています。希少な樹木の保全についても遺伝的な地域差を考慮したうえで、効率的な増殖と確実な植栽が必要です。

そのため、プロジェクト研究では主要な広葉樹や絶滅危惧種について、遺伝的な地域差を明らかにし、それに基づいて種苗を移動してもよい範囲を検討しました。また、優良な種苗を効率的に増殖するため、挿し木や組織培養、着花促進の技術開発を行うとともに、根に共生する菌類や炭を利用した苗木の育成についても研究を重ねてきました。

主要な研究成果

葉緑体から得られる遺伝子を解析した結果、静岡県内に自生するケヤキは、概ね伊豆～東部、東部～中部、中部～西部に分布する３種類の遺伝子タイプに分かれました。また、ブナとカツラにもそれぞれ4種類、2種類の遺伝子タイプが存在していました。



▲ケヤキの遺伝子タイプと分布
（同一色は同一タイプを示す。）

これらの樹木について、他の機関が分析した全国の遺伝子タイプと比較し、種苗の範囲と移動可能範囲を示すことができました。これを考慮して、自然環境の保全を目的とする地域に苗木を植栽する場合は、できる限り同じ遺伝子タイプの種苗を植栽することが望ましいと考えられます。

一方、増殖と育苗については、ケヤキやカエデ類では、枝の樹皮を環状に剥ぐことにより着花量が数倍に増加し、結実量の増加につながります。また、新規の成長調整物質に浸すことでケヤキの挿し木発根性が促進され、若い実生苗の組織の一部を用いてイタヤカエデを培養で増やすことにも成功しました。さらに、根系に菌類を人工的に共生させると、ケヤキやミズキ、ミズメの成長が良好になり、もみ殻くん炭を施用すると、さらに成長促進効果が認められました。

希少な樹木の保全も県の重要な施策の一つで、平成22年には条例が公布されました。絶滅危惧Ⅱ類に指定されているジゾウカンバは、静岡県が全国分布の南限であるため、地球温暖化の影響によっては枯死してしまうことが心配されます。そこで、北限の栃木県までを含めた全国的な調査を行い、大きく３種類の遺伝子タイプが分布することが明らかになりました。さらに詳細な解析によって、静岡市の下十枚山、富士宮市の毛無山に自生する遺伝子タイプは、山梨県の黒岳の遺伝子タイプと同じことがわかりました。組織培養によるジゾウカンバの個体増殖にも成功し、実生苗では菌類の共生により生育が良好になる例も認められています。

浜松市の丘陵地と愛知県にしか自生していないナガボナツハゼの遺伝子解析では、三方原台地周辺の個体は同一の遺伝子タイプであることが明らかになりました。この樹種も組織培養による増殖が可能でした。

▲組織培養により再生したジゾウカンバ

成果の活用と普及

静岡県では、有用広葉樹で得られた遺伝子の情報を基に、地域の環境に適した地元産種苗の供給体制づくりを目指し、採種母樹林の指定を検討しています。

一方、絶滅危惧種については、さまざまな保護や保全の考え方があり、関係者で協議していく必要があります。自生地の確保や生育環境の改善を優先的に進めることが大切ですが、どうしても植栽や復元が必要な場合は、自生地の遺伝子を考慮した種苗を確保することが必要です。

以上のプロジェクト研究の成果は、報告書、提案書、育苗技術書、希少種保全の事例集として冊子にまとめました。興味のある方は、ぜひご覧ください。今後も研究成果を活かして豊な森づくりを進めていきたいと考えています。

本部情報

より高度な能力の開発に向けて

山林協会は、「県土の保全」と「山村の振興」を目的にしています。

具体的には、県土面積65%の森林を保全して山地災害防止等の公益的機能を持続的に発揮させ、生業の林業を盛んにして活力ある山村に蘇らすことです。

そして、この実現のためには、元気で技術・技能の確かな人材の存在と活躍が不可欠です。

そこで今回は、協会が静岡県農林大学校と連携して行っている、人材を育てる指導力や時代に応じた新たな技術力などの「より高度な能力の開発」への取組を紹介します。

【林業指導者の養成】

企業や社会などの将来の命運を決めるのは、「次代を担う人材を育て得るか否かに懸かっている」と言っても過言ではありません。

とりわけ林業等の技術系の人材育成には、確かな知識や技術を身につけた先達による実務作業を通じた指導が極めて有効です。

▲現地基礎技術の指導実習（浜松市天竜区）

そこで、間伐や機械集材等の現場技術や安全管理の指導能力を培う研修を平成17年度から開催し、既に26名の指導者が職場や地域で人材育成に活躍しています。

▲林業労働の安全衛生（農林大学校）

今年も、９月から10月の間の８日間の養成研修の結果、新たに４名の指導者が誕生し、「地域の山の担い手と手を組んで、今までを超えた作業体制を創り上げたい」、「身につけた知識で社員たちを教育し、レベルの高い会社にしたい」等、頼もしい抱負を述べておりました。

新指導者の皆さん、貴方達のような優秀な人材を数多く育ててくれるよう、今後の活躍を期待しております。

【システムオペレータの養成】

静岡県の森林は、地形が急峻で谷が深いこと等から、概して欧米と比べて作業効率が低いと言われており、この立地条件の悪さを克服するためには、機械を効率よく駆使した林業に転換することが必要です。

このため、高性能林業機械や車両系建設機械を手足のように自在に操り、かつ、無駄なくこれらの機械を組み合わせて稼働させることの出来るシステムオペレータを養成しています。

▲ハーベスタによる枝払造材実技研修（浜松市三ヶ日町）

今年は、藤枝市及び浜松市天竜区で８日間の車両講習・伐採・搬出作業の実技研修を行い、研修生５名は真剣な眼差しで機械操作に臨み、去る10月26日、事故もなく無事に終了しました。これでシステムオペレータは、平成16年度からの累計で27名になりました。

▲スイングヤーダによる集材実技研修（浜松市三ヶ日町）

「会社の高性能機械を適材適所に配置して、作業効率を高めたい」、［見て触れて得た機械の性能を会社に報告し、次回の機械更新にも活かしたい］等、アンケートに語っておりました。

彼らが、高性能林業機械などを効率的に駆使して生産性の高い林業に換え、静岡県の森林整備水準と林業活力を高めてくれるものと、活躍を楽しみにしています。

事務局だより

★やっと、暑い、暑い夏が去り、霜の降る「霜月」になりました。二十四節季、冬の始まる「立冬」や雪のちらつく「小雪」もありますが、今年はどんな「時季」になるのでしょうか。

また、「文化の日」の後には、「七五三」や「勤労感謝の日」が続きます。しかし、地域社会の目が届かぬ陰で「虐待」を受けた子供や、「就職氷河期」で才能を活かす機会を与えられない若者が、「今様の日本文化」の中枢を担う大人の背を、どんな想いで見つめているのでしょうか。

「もののあわれは秋こそまされ」そんな想いに耽っている内に、怖い「師走」が向こうから迎えにやって来そうです。

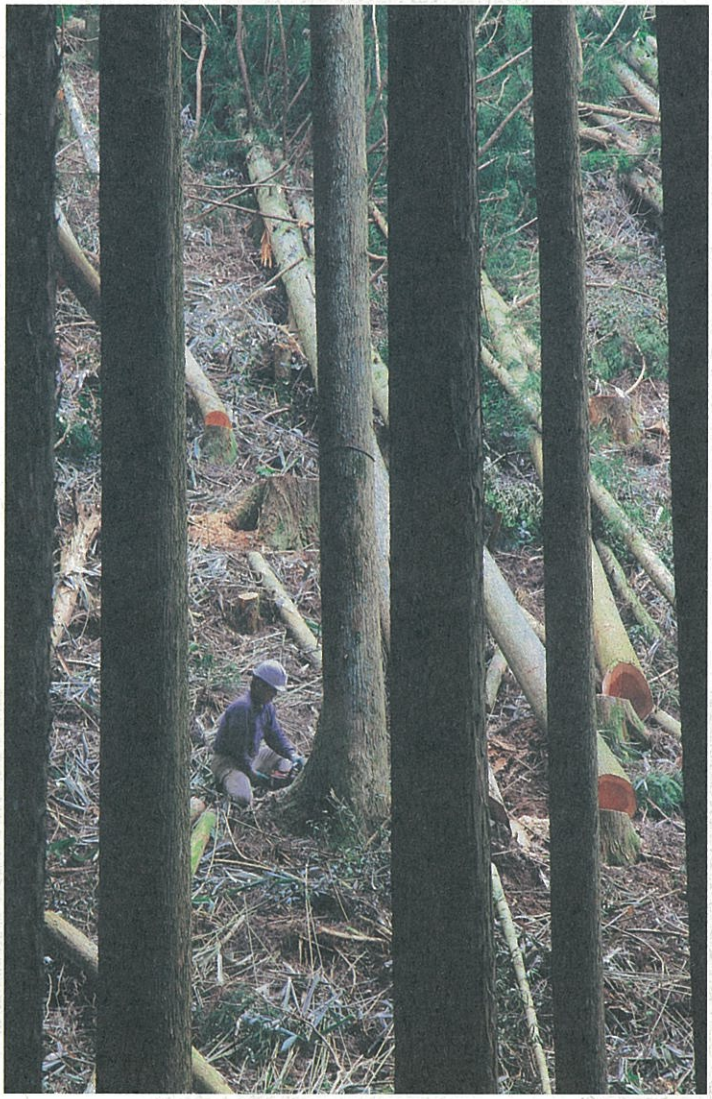
★皆さんご存知の通り、裾野市長の大橋俊二様は医師。噛んで含める語り口に触れている内に、市民の訴えをよく聴き、安心感を与える「あたかも裾野市の主治医では」、との想いに至りました。

★今年の「しずおか森林写真コンクール」は、山に働く人の姿が多く目に留まりました。力作揃いの中から秀作を選んで頂いた審査委員長の三井章二様、有り難う御座いました。

また、「治山・林道等コンクール」でも、「森林整備」部門が新設されました。「いよいよ林業の時代」の意を強くしました。（小松）

「森と人」編集・発行
社団法人　静岡県山林協会
静岡市葵区追手町9-6 県庁西館9F
TEL:054-255-4488/FAX:054-255-4489

平成22年度しずおか森林写真コンクール入賞作品



男のしごと

最優秀賞

舘林　秀夫（静岡市）

撮影地：静岡市葵区梅ヶ島

審査講評

審査委員長
三井　章二

本年度も240点をこえる沢山の応募がありました。写真の対象も、森林・林業から、山村の生活風景やリクリェーション等、幅広くバラエティに富んだ作品が応募されるようになりました。写真を拝見するのは楽しいですが、審査で優劣をつけるのは大変になりました。

今年は、林内の作業風景を写した作品に優れたものが多く、これらが上位を占めました。また、里山の祭り風景、巨木や、棚田等力作も沢山あり内容の充実した立派なコンクールとなりました。

最優秀賞の静岡県知事賞には、静岡市の舘林秀夫氏の「男のしごと」が選ばれました。森林の伐採風景ですが、手前の大胆な立木のシルエットが印象的です。急峻な山の地形の状況、危険を冒して働く「山男」の生き様を描いた表現力のすばらしい作品で、技術もハイレベルで印象に残る秀作です。

特選の山林協会長賞の２点には、浜松市の伊藤正義氏の「間伐材搬出」と、静岡市の稲葉浩哉氏の「里山の祭り」が入賞しました。

「間伐材搬出」は、狭い立木の間を苦労して材木を搬出している様子が、働く人の姿勢から読み取れます。３本の材木の位置も良く、カメラアングルもよいので、難しいと言われる林内の様子が良く写し出されています。

「里山の祭り」は、神社の境内で、村人が御神木を囲んで、お神酒でも頂いている風景だろうか、幻想的で安らかな雰囲気が伝わってきます。はだか電球も独特の味わいがあります。素朴な里山の祭りで、笛の音が聞こえてきそうな作品です。

準特選には、５点が選ばれました。

浜松市の山口靖宏氏の「山から産まれて」は、木材の搬出作業で、一見、昔の木馬を思わせるような写真です。木材の搬出が大変で危険であることを、この写真が物語っています。機械化されたと云っても、まだまだ山仕事は大変です、安全を祈ります。

静岡市の飯田忠雄氏の「巨樹探険」は、巨木の写真です。大木でも枝葉まで入れると小さく写ってガッカリしますが、この作品は立派な巨木です。ある程度高い所から狙った位置取りがよく、人物を入れて大きさの対比も出来ています。数百年の歴史を見つめて生きてきた巨木の荘厳さが感じられます。是非巨樹探険を続けてください。

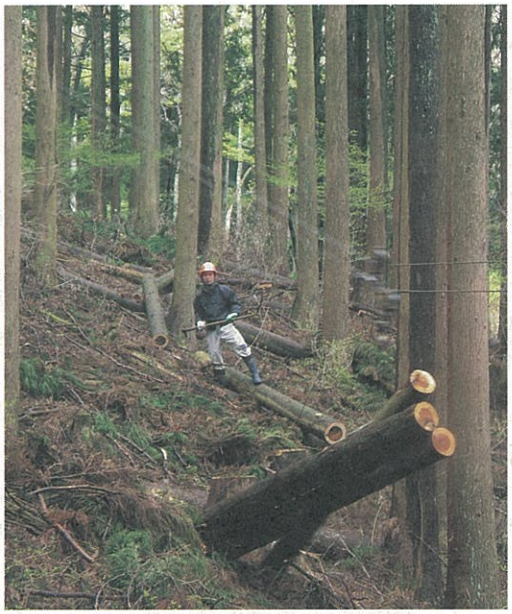
松崎町の渡辺玲子さん「晩秋の原生林」は、紅葉の写真ですが、原生林の立派な巨木が圧巻です。機会があったら尋ねて見たくなるような風景写真です。

森町の鈴木左知子さん「朝光」は、手入れの行き届いた針葉樹林に差し込む朝の光に魅せられシャッターを切ったと思われます。林の写真は光が差し込むと白い斑点となって失敗しますが、この写真は、朝の柔らかな光を逆光で捉えることで成功しました。静寂な林と椎茸のほだ場を入れて変化をつけたのも良いでしょう。

静岡市の青山真虎氏「楢尾の山を駆けるこども」は、山里の綺麗な空気をいっぱい吸って走る元気な子供達です。シャッターチャンスが絶妙で、すがすがしい明るいスナップ写真です。バックの山の稜線を少し入れると更に山里の感じが出たと思います。

その他、入選に20点が選ばれました。何れも力作ぞろいでした。珍しいものでは外国人が天竜区熊で植林をしている写真とか、滋賀県の人が寸又峡の写真を応募して入選しています。

なお画題は6文字程度で短いほうがメッセージがより伝わり、良いと思います。また、次回も多数の応募を期待して講評とします。

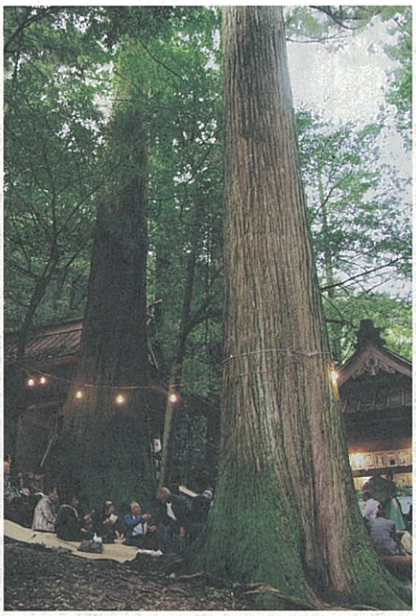


特 選

間伐材搬出

伊藤　正義（浜松市）

撮影地：浜松市天竜区龍山町



特 選

里山の祭り

稲葉　浩哉（静岡市）

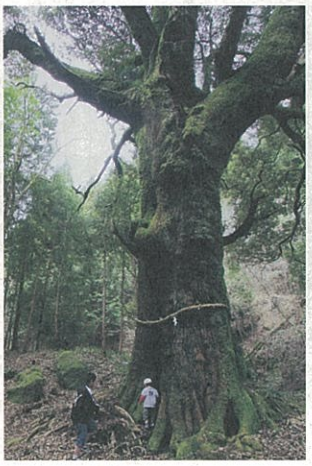
撮影地：静岡市葵区有東木

準特選

山から産まれて

山口　靖宏（浜松市）

撮影地：浜松市天竜区水窪町



準特選

巨樹探険

飯田　忠雄（静岡市）

撮影地：静岡市清水区宍原

準特選

晩秋の原生林

渡辺　玲子（松崎町）

撮影地：伊豆市湯ヶ島

準特選

朝　光

鈴木　左知子（森町）

撮影地：磐田市豊岡神増

準特選

楢尾の山を駆けるこども

青山　真虎（静岡市）

撮影地：静岡市葵区楢尾

入 選

伐　採

飯田　篤男（浜松市）

撮影地：浜松市天竜区

入選

森の中を歩く人

白鳥　松平（静岡市）

撮影地：静岡市葵区水見色高山

入選

木　馬

長澤　光兼（裾野市）

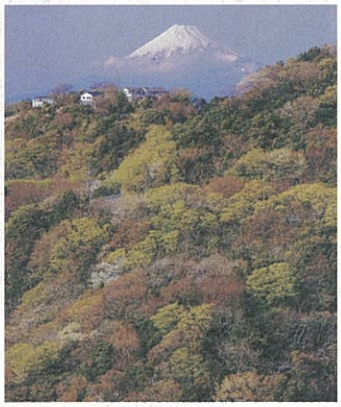
撮影地：富士山（西臼塚）

入選

鹿食害防止

森　　勇（静岡市）

撮影地：富士宮市粟倉



入選

春の丘

藤井　昭浩（松崎町）

撮影地：戸田村

入選

しいたけ原木

土屋　敏彦（裾野市）

撮影地：裾野市深良

入選

神 楽 舞

西澤　やえ子（静岡市）

撮影地：静岡市葵区横沢

入選

自然に溶け込む

伏見　裕之（焼津市）

撮影地：島田市川根町抜里

入選

野生の育つ森

望月　正晴（静岡市）

撮影地：伊豆市湯ヶ島 天城林道

入選

農の若者たち

青木　忠平（焼津市）

撮影地：菊川市上倉沢

入選

薪のあるくらし

綾木　恵子（静岡市）

撮影地：静岡市葵区内牧

入選

森の中で遊ぶ子供

清水　彩花（浜松市）

撮影地：浜北森林公園

入選

運動場のイチョウの木

桑原　健二（静岡市）

撮影地：静岡市葵区　中藁科小

入選

頑張れ山の子供たち

青嶋　隆男（浜松市）

撮影地：浜松市天竜区日倉峡

入選

アシタカ美林に咲く

勝亦　道子（富士市）

撮影地：裾野市

入選

積 込 む

大石　雄司（静岡市）

撮影地：静岡市葵区有東木

入選

炭 焼 準 備

石神　俊一（焼津市）

撮影地：島田市笹間下

入選

南アルプスへようこそ

秋山　富雄（磐田市）

撮影地：南アルプス畑薙大吊橋西口

入選

異国の救世主

野澤　花奈（浜松市）

撮影地：浜松市天竜区熊

入選

春萌える

鍋島　道雄（滋賀県大津市）

撮影地：寸又峡